

佐 藤 縣 の 楮 に つ い て

佐藤縣林務課 須古晴和

生産物の楮について藤紙業試験場で種々考究している問題の中で和紙の強度及び耐水性を高め、楮の利用範囲を広げる爲の一試案を述べる。和紙使用上の一欠点となる水気により非常に弱い性質を改良する爲に酢酸ビニールを用い、之のアルコール溶液を濃度10%と25%の二通り作つて楮のペンを100%用い普通に処理した手すき和紙を試料として抗張力の試験を行った。

試料1平方丈に対して試薬130gを塗附けたものを蒸津製作前製の抗張力試験機にかけて次の結果を得た。

	乾燥状態時の試験		湿潤時の試験		備 考
	抗張力	比 率	抗張力	比 率	
紙処理の試料	1.97Kg	100	?	100	湿潤状態時の比率は乾燥時の紙処理試料と比較した。
10%濃度液処理	3.47	156	0.87	38	
25% "	3.20	163	1.60	81	

今後の研究課題として酢酸ビニールの濃度の是をもつと小さくした故多くの各種抗力種類社の合成樹脂等の材についての同様の試験及び耐久力の試験等を考へている。

之による用途更だとしては美術工芸用の加工紙、生産方面例えは蒔染用の紙子シマク、ムシロの代用、機械のパツキンなどに使えるのではないかと考へられ、特に油紙と違つて水をはじかず印刷が可能ならば新用途を考へたい。

価格は酢酸ビニール1Kg 400円、アルコール1Kg 180円として紙一平方丈当り10%のもので26円、25%のもので26円余りになるので紙を10円と見て原料代のみで3倍半から4倍になり相当値段がみさむのでこの案も考慮の余地がある。

以上一予報として報告し、御批判御指導を仰ぐ。

竹 桿 を 構 造 材 と する 二 三 因 子 の 相 関 々 係 に 関 して

大分縣農林部林務課 野 中 忠 彦

大分地方事務所林業課 小 代 九十九

竹材の生産及利用上の取引単位は竹材販賣の束単位に基いて取扱われているが業者等はこれらの履長から竹桿を構成する因子の二に就いてその相関々係を知る目的で考察を試みた。

竹材の生理学的研究に就ては大分農学部青木孝吉氏の「^{*} 延岡市近郊マタケ材積について」がある外多くを知らないが、一般の利用的更地による研究業績は相当行われている。